

候補者の素顔

▼母国で5年半の看護師キャリアを持つ。経験を身につけたいという目的で来日を決めた。日本語について、「ひらがな、カタカナ、漢字は難しい。丁寧な言葉の使い方も難しい」と話す。研修後は淡路島の病院に就く予定。「雪も体験してみたい！」と日本での生活も楽しみにしている。



▼新卒者。これから福祉施設に入職予定。「日本のおじいさんとおばあさんのお世話をしたい。若いいろいろな人に出会っていろいろな所に行って経験を積みみたい」と目を輝かせて語る。第1陣の先輩とウェブを通じて交信中で、「早く来てくださいと言われ、心強い」と話す。



(右) アストリアさん(27歳) (中) エリカさん(23歳) (左) ジュジュさん(21歳)

▼アストリアさんは母国の大学で日本語・日本文化を専攻し、俳句や日本のドラマが好きだそう。エリカさんは、「日本は規則があるところがいい」と話す。皆、「富士山・雪を見たい」と日本の風景を楽しみにしてきた。「知らないことばかりだが、患者さんの性格を早く知って仕事に慣れたい」と話す。



和やかな発表会(最終日)で

ベトナム元氣三人娘の日本語集中研修が昨秋十六日間行われた。担当教師は約十名で、正・補助教員が一組になり、交代で教えた。学習時間は朝九時から午後六時まで(昼休み一時間)の全8時間。毎日教師の負担も大きかった。

EP A締結から二年目を迎える。一月半はインドネシア人候補者第二陣が入職する。第二陣はインドネシアで四カ月間、日本で二カ月間の研修で、昨年十一月、母国での研修を終えた三百六十一人の候補者が来日した。他一名は日本語研修を終えた。

研修を免除され、昨年十月に入国を果たした。今回、日本語等の事前研修を担当したのは、ヒューマンリソース株式会社だ。インドネシア現地での事前研修は同事業で初の試みだったが、バンドンのインドネシア教育大学などの施設を借りて実施された。

募集に応募したのは約二百名だった。教師選考の基準として、特に業務に対する理解力を見た」と、同プログラム事務局の新岡氏は言



患者への対応をレクチャーする。教師は元看護師。1クラス20名を担当

ベトナム元氣三人娘の日本語集中研修が昨秋十六日間行われた。担当教師は約十名で、正・補助教員が一組になり、交代で教えた。学習時間は朝九時から午後六時まで(昼休み一時間)の全8時間。毎日教師の負担も大きかった。

毎日約8時間の授業 仕上げの2カ月

う。応募の多くは何らかの形で日本語教師の勉強や教える経験がある者だったが、「教える」という気持ちばかりが先行している様子が目立った。国家政策の一端を担うという責任は重い。個人の「うしろたい」という志望だけでは心許ない。また、模擬授業等を通し、教育の成果を上げられるかを判断した(新岡氏)。

国内研修について新岡氏は「インドネシアではコミュニケーションの機会に限界があったが、仕上げは、多くの日本人と接触させ、とっさの時に敏速に対応できる訓練もしたい」と話す。

日本に貢献できる人材としてデビューが待たれる。(安西黒河内)

インドネシア第2陣 国内研修始まる

箱根